全島避難から1年半が経過した三宅島

<佐藤　努・東宮　昭彦>

活発な火山活動が続く三宅島では，全島避難が行われてから2002年3月で1年半が経過した．植生が衰退するほどの火山ガスや，道路が流されるほどの泥流を様々な方法で回避しながら，島内での調査や復旧作業が続けられている．

1. 三宅島と神津島を1日1往復する定期船「はまゆう丸」．東京都現地災害対策本部による三宅島入島許可が無いと乗船することはできない．

2. 島内ではガス検知器を携帯し(右胸に付けた黄色い装置)，二酸化硫黄濃度が濃いときはガスマスクを着用する．白い噴煙の周囲に青白い霧状に見えるものは硫酸ミスト．

3. 火山灰採取用トレーのメンテナンス作業の様子．前回の設置以後にたまった火山灰を回収し，トレーを洗浄して再び設置する．回収した火山灰は実験室に持ち帰り，分析に用いられる．

4. 島内で使用している車は，火山ガスや酸性雨の影響のためか変色や腐食が著しい．フロントグリルは緑色に変色し，ワイパーはたびたび故障する．

5. 三宅島の北側に位置する三宅支庁．左側の建物の3階に現地災害対策本部がある．右奥の建物は，空気清浄化装置を備えたクリーンルーム．ロータリーのフェニックスは青々としている．

6. クリーンルーム内には，屋外に設置された空気清浄化装置から銀色のパイプを通してきれいな空気が送られてきており，計測装置によって二酸化硫黄濃度が監視されている．

7. 枯れて折れてしまった三池のフェニックス．三宅島では西風が卓越し，火山ガスは島の東部に多く流れるため，山麓では三池周辺における植生被害が目立つ．奥の建物は三宅村役場．

8. 島の北東側中腹のはちまき道路の様子．植生はすっかり枯れ，木は折れてしまっている．噴火以前には豊かな緑が生い茂っていたとは思えない光景である．

9. はちまき道路では，泥流によって道路が所々大きくえぐられており，車両の通行が不能となっている．この場所では工事用の支柱が架けられている．

10. 降雨のため冠水する椎取神社付近の都道212号線（2002年1月16日）．前方より泥まじりの降雨が大量に都道上を流れてくるため車両は通行不能であった．

11. 泥流で流された都道を復旧するために建設される芦穴仮設橋．橋の側面のパイプは水道管．都道と共に被害を受けた水道は，2001年6月に島の南側の水源から島の北側の支庁まで西まわりで開通した．

12. 泥流対策用の堀．阿古の鉄砲場では，1983年の噴火活動の際に流れた溶岩流の上を泥流が流れ，たびたび都道が通行不能となっている．